

交通安全情報

高齢者運転「本当に危ない兆候10」



高齢者が加害者になる痛ましい交通事故が続発しています。あなたのご両親や身近な方は大丈夫でしょうか。事故を未然に防ぐためには、家族が普段から運転を観察することが重要です。では、どこに注意すればいいのでしょうか。

「文春」が専門家への取材を基に一覧化したのが、右記の「本当に危ない兆候10」です。

一つでも該当する「兆候」がみられた場合は家族で話し合いの場を設け、事故を起こす前に免許証の返納について考えましょう。



高齢者運転「本当に危ない兆候10」

1 心構え	「自分は絶対に事故しない」と気持ちは若いままで譲らない
2 鍵・免許証	キーや免許証の保管場所を忘れ、他の人に盗まれたと言うようになった
3 車体の状態	車が洗車されず、傷が増えている
4 発進時	クリープ現象(ブレーキを離すと車両が動く仕組み)を使わない
5 ペダル操作	ブレーキのタイミングが遅くなり、前より急ブレーキも増えた
6 一時停止	停止線からはみ出し、左右も確認しなくなった
7 車内の様子	会話しながらの運転を嫌がるようになった
8 交差点	信号や標識を見逃すようになった
9 右左折	ウインカーを出さずに曲がるようになった
10 車庫入れ	バックしながらの車庫入れ・駐車で何度も繰り返す